

図1 HIVスクリーニング検査の現状と課題（2005）

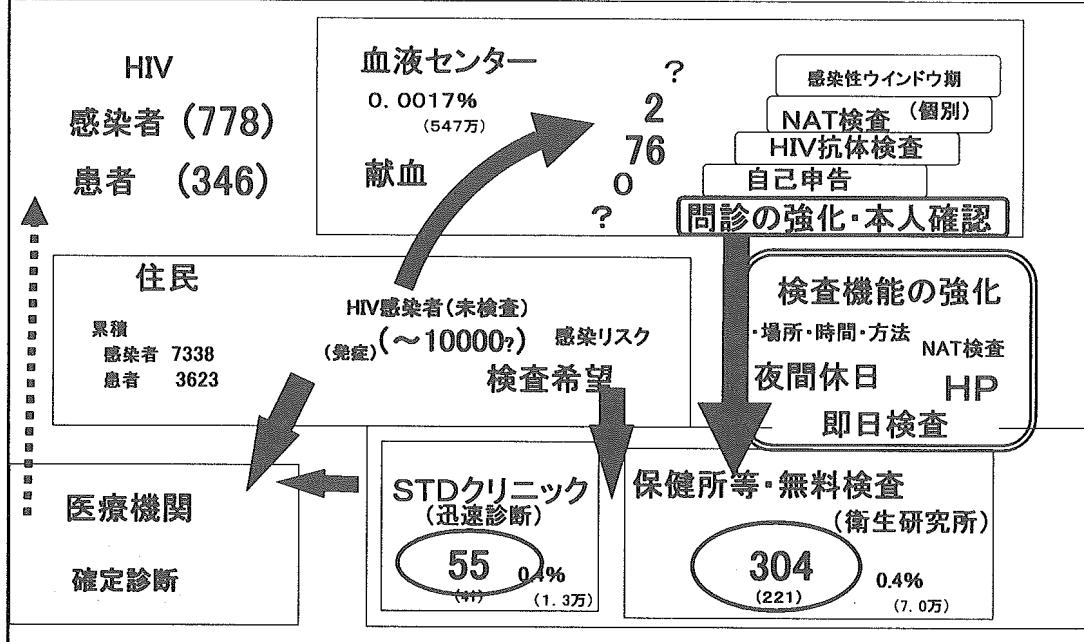


図2

ホームページ

HIV検査・相談マップ

<http://www.hivkensa.com>

2005年12月現在
1日平均アクセス数

2001年9月からの
合計アクセス数
約2000件/日

HIV検査・相談マップ www.hivkensa.com

HIV検査体制
研究班

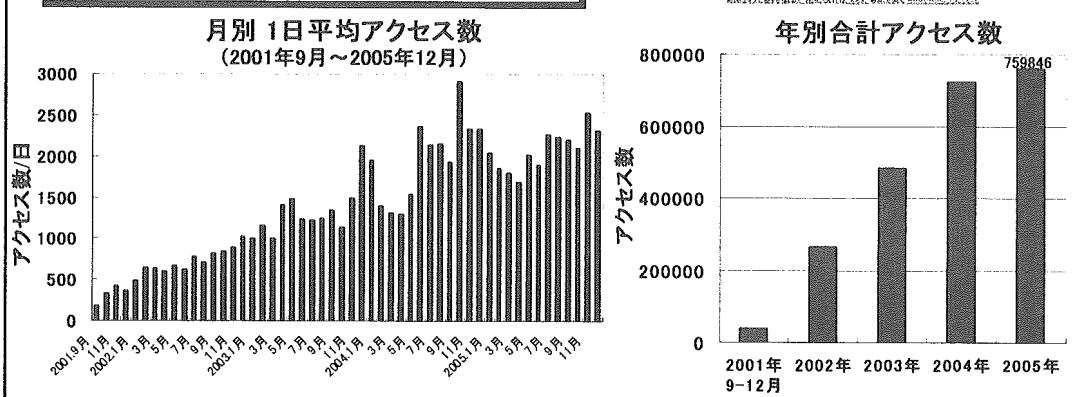


図3

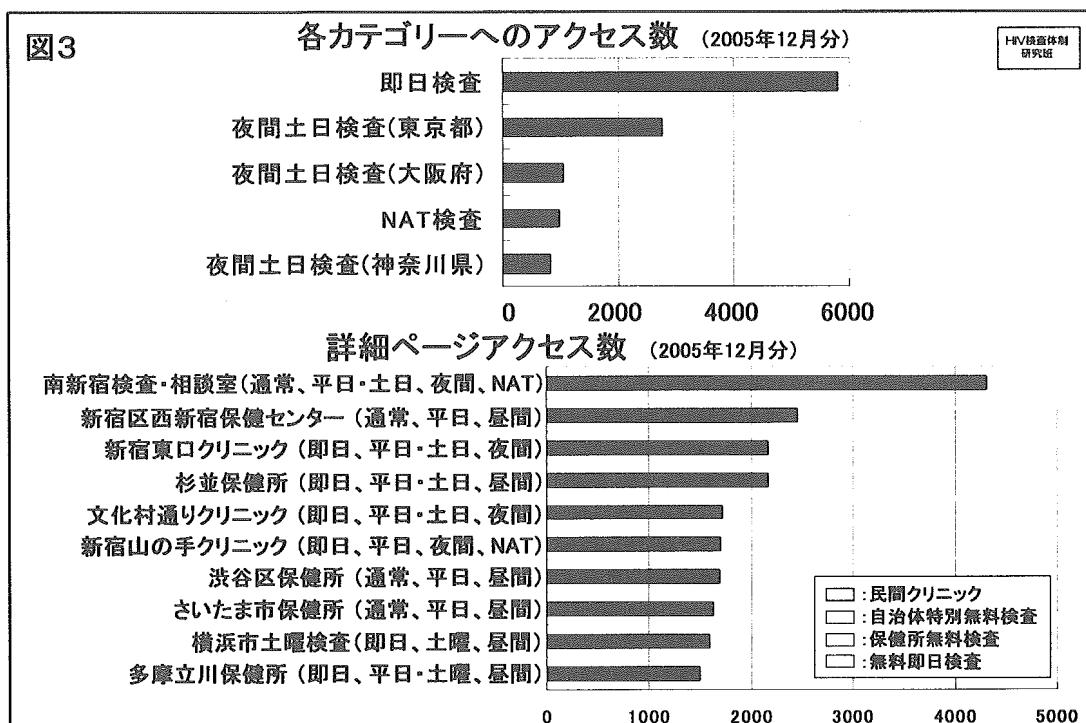


図4 HIV即日検査の導入
—民間クリニックとの連携—
<2005年12月現在 18ヶ所>

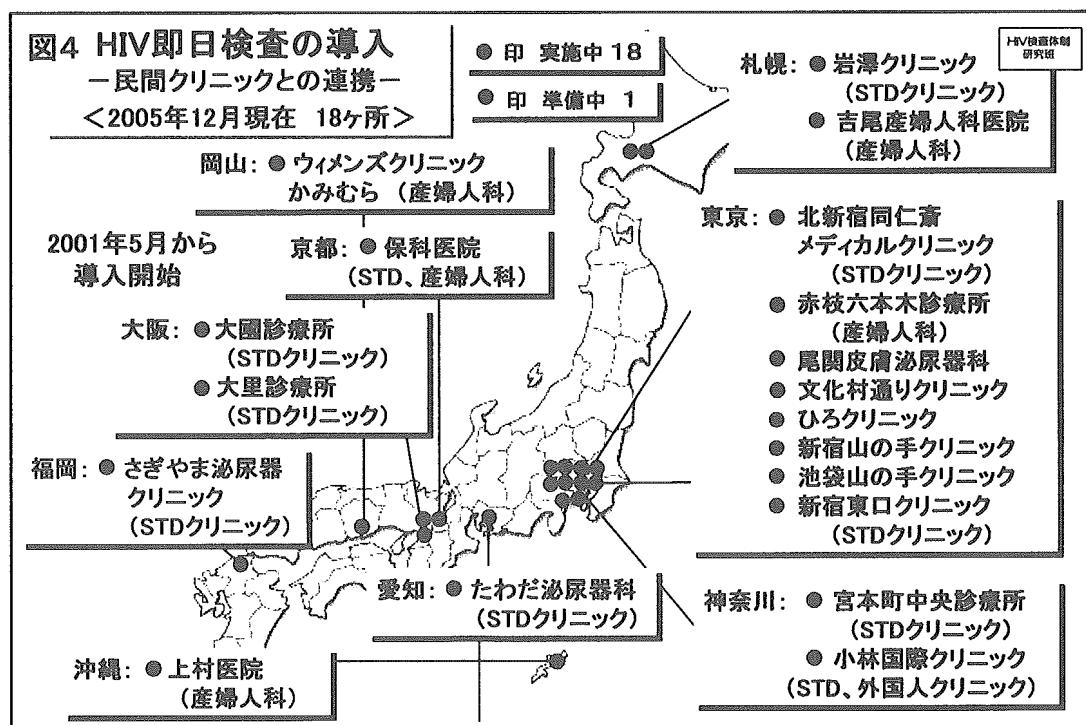


図5 民間クリニックでのHIV即日検査実施状況

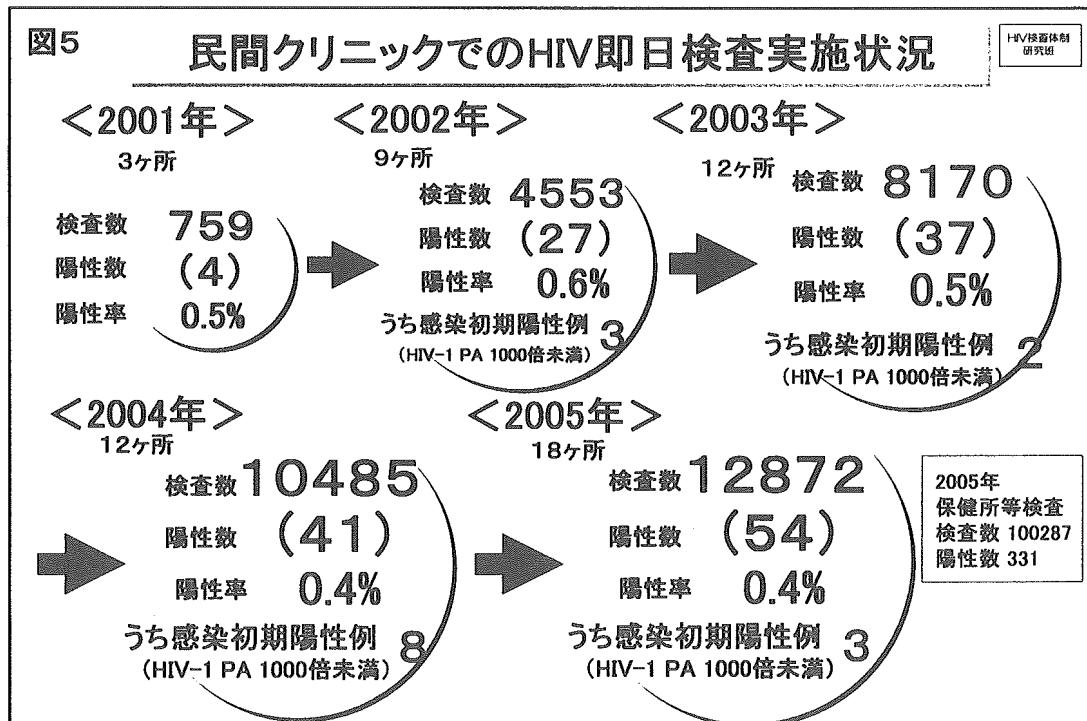


図6 保健所HIV検査への即日検査の導入（栃木県県南保健所）

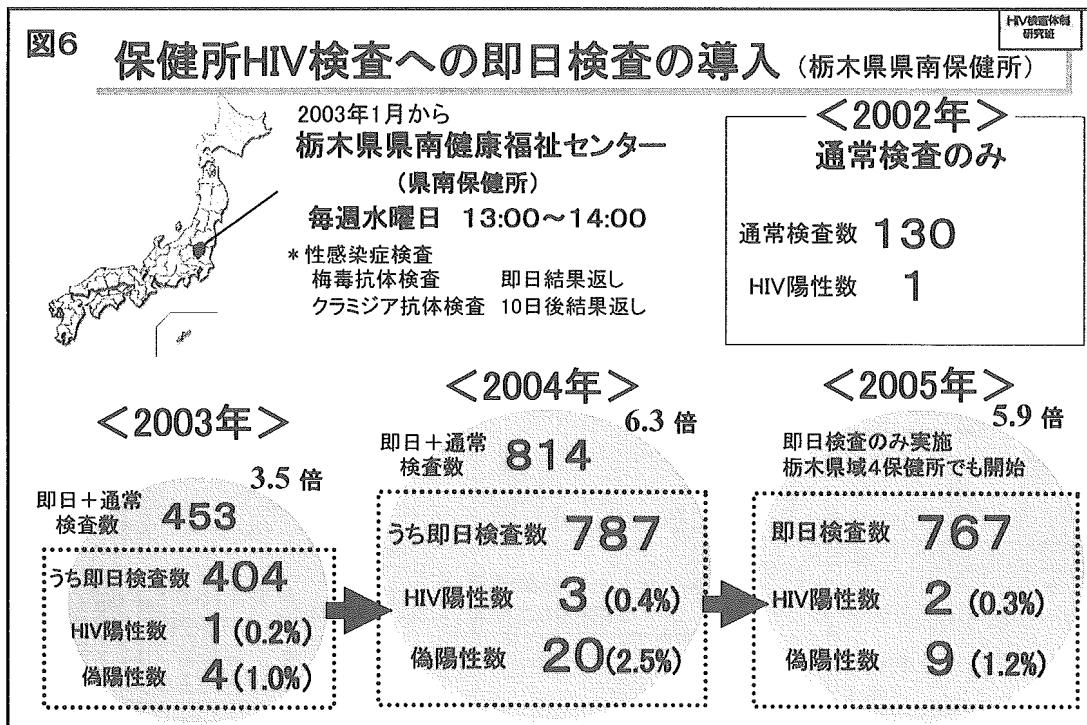


図7

HIV即日検査と他の感染症検査

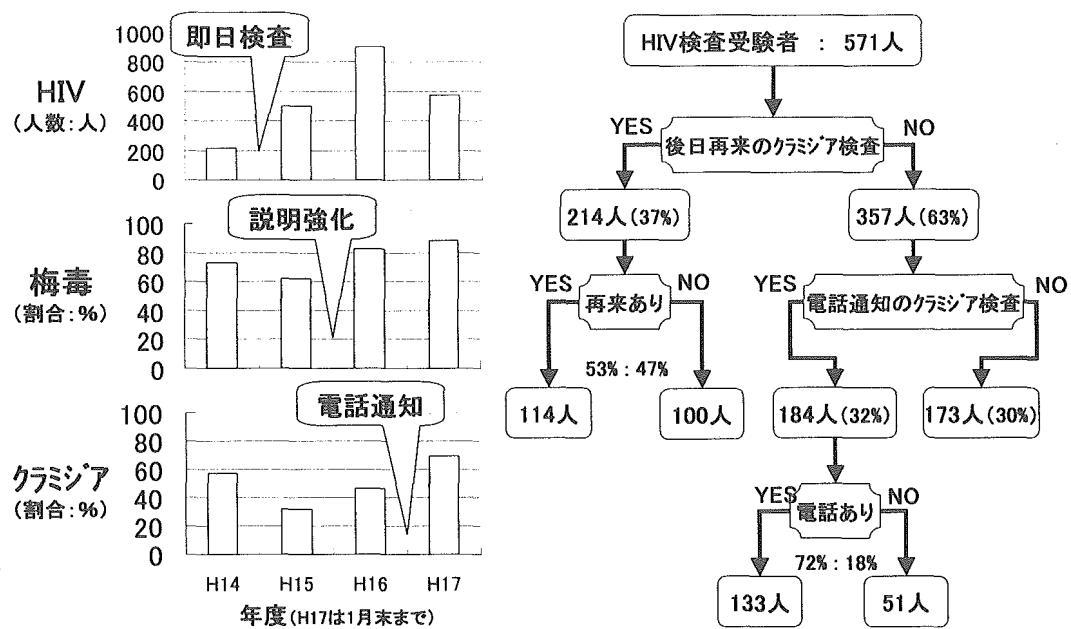
HIV検査体制
研究会

図8

保健所HIV検査への即日検査の導入 (江戸川保健所)

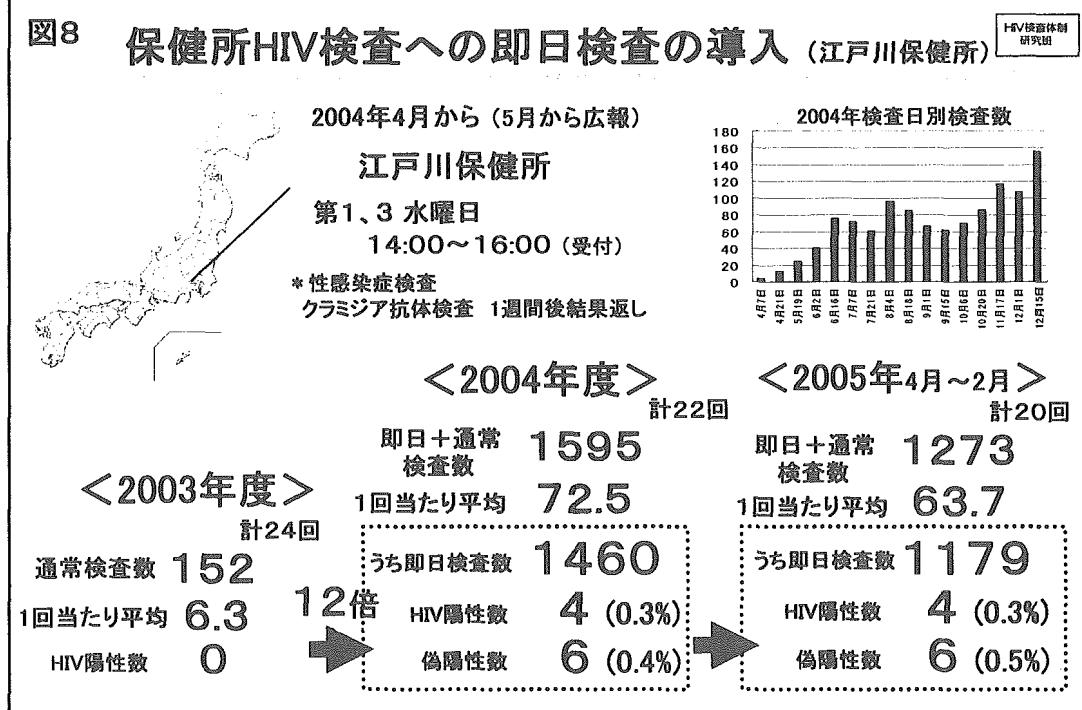
HIV検査体制
研究会

図9

保健所HIV検査への即日検査の導入（北海道）

HIV検査体制
研究班

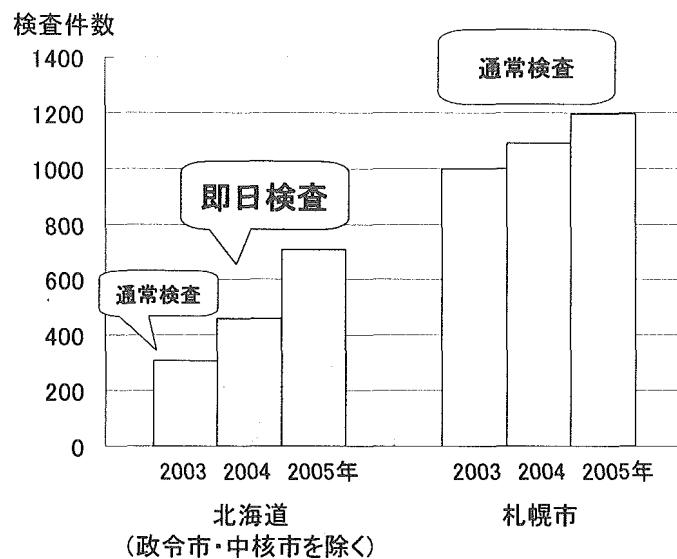


図10

保健所等における HIV即日検査のガイドライン

第2版（平成17年3月）

第1版（平成16年3月）
第2版（平成17年3月）

利用される信頼へ

本ガイドラインは、厚生労働省医療政策会議による
「HIV検査体制の整備に関する研究」県のガイドライン
作成委員会が、平成16年度のガイドラインの説明・相談
部分の充実を図り、より実用的なガイドラインとなるよ
う平成17年3月に改訂した第2版です。
今後も改訂するとともにこれまで即日検査と検査の意見
を反映させ、同時に判断を作成し公表する予定です。

HIV即日検査の普及

—ガイドラインの配布と研修—

＜配布先＞

- ◆都道府県、政令指定都市等
自治体HIV担当主管課
 - ◆保健所
 - ◆衛生研究所
 - ◆ブロック拠点病院
- 計 1155箇所

＜即日検査研修会＞

- ◆国立保健医療科学院 エイズ対策研修
- ◆エイズ予防財団 HIV検査相談研修
- ◆神奈川県、北海道、埼玉県等自治体
- ◆国立病院機構九州医療センター

図11

HIV即日検査普及へ

感染すぐ判明 試験導入では4倍増に

HIV感染すぐ判明

即日検査ガイドラインを作成

2004.5.28 神奈川新聞

2004.5.28 福井新聞

日本経済新聞(夕刊) 2004.8.3

HIV検査体制研究班

図12

HIV検査・相談マップ紹介カード

HIV検査体制研究班

<即日検査紹介カード>

HIVまめ知識

“HIV即日検査”もやってます～。

即日検査とは、迅速検査キットを用いて、検査当日にスクリーニング検査結果をお知らせする検査法です。

HIV抗体迅速検査キットは、通常の抗体検査キットとほぼ同じ性能ですが、あくまでスクリーニング検査法の一つです。迅速検査で陰性の場合には、結果は陰性として確定します。しかし、迅速検査で陽性の場合には、異なる方法を用いた確認検査が必要となります。そのため、後日(通常1週間後)、改めて確認検査の結果を聞くことが必要となります。

即日検査に関する詳しい検査情報は…
<http://www.hivkensa.com>

図13 保健所等におけるHIV即日検査の普及

HIV検査体制
研究班

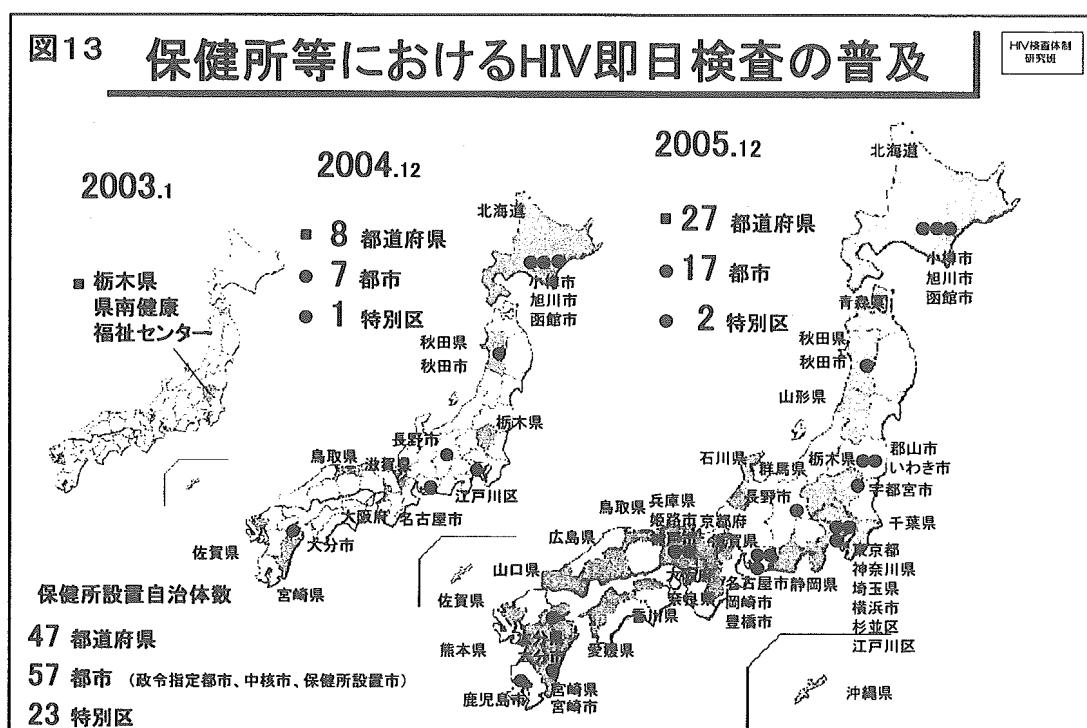


図14 保健所等無料HIV検査の検査数
(15都道府県)

HIV検査体制
研究班

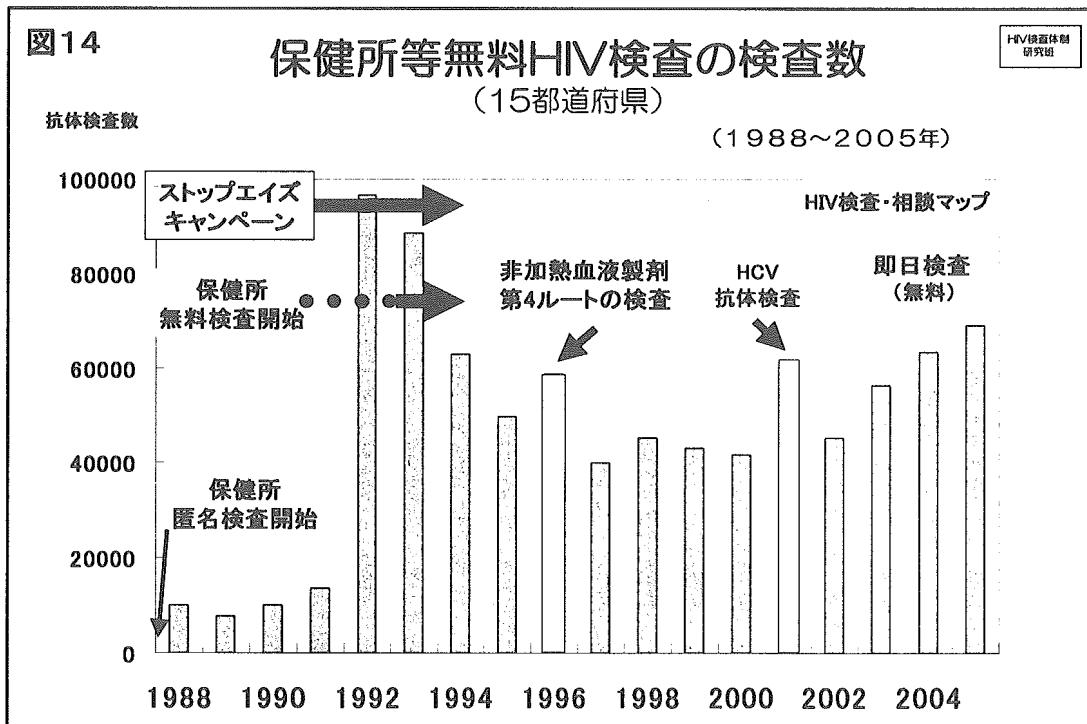


図15 保健所等無料HIV検査の検査数と陽性数
(15都道府県)

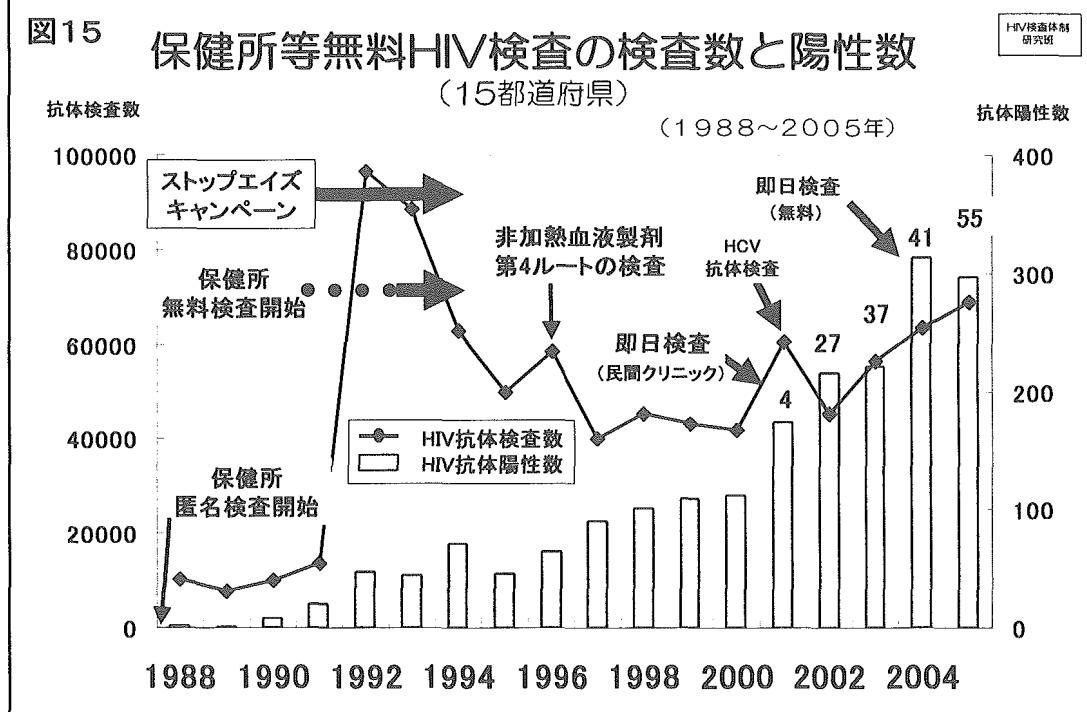


図16 血液の安全性確保対策(ドナースクリーニング)

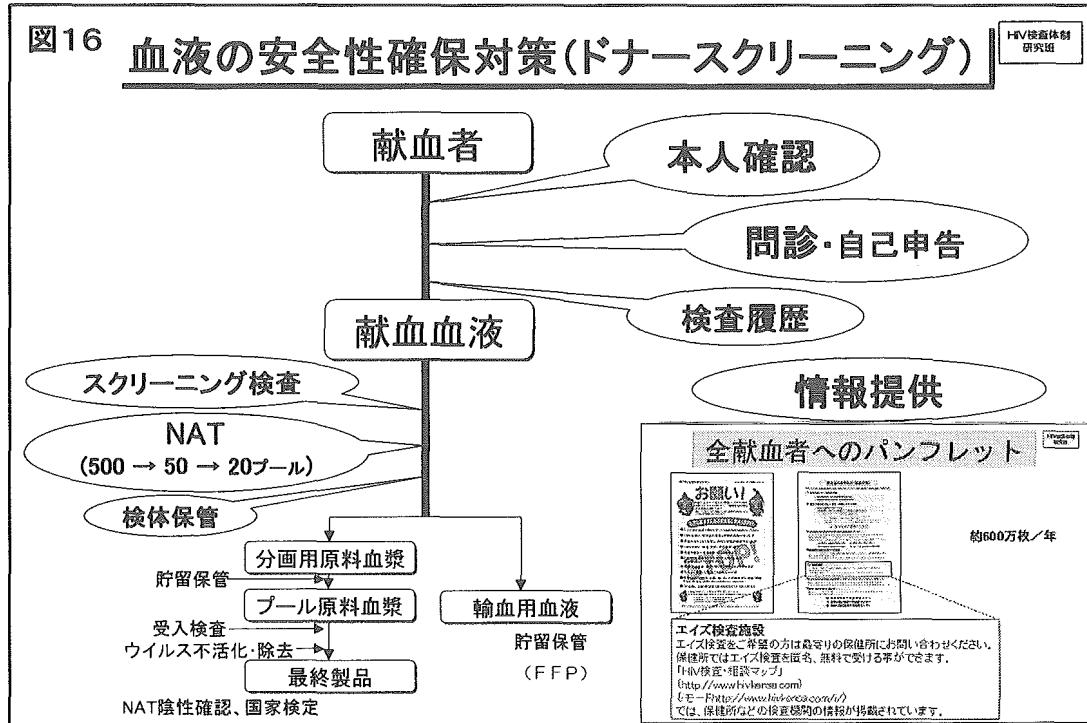


図17

アンケート調査結果のまとめ

HIV検査体制
研究班

本人確認への理解あり

- ▶ 「証明書の提示を断った」のはわずか1%となり、また、本人確認を行う趣旨を「理解した」は9割に達しており、大多数の方には本人確認の実施について理解し、積極的な肯定か否かは別として、おおむね受け入れられていると考えられる。

1%とはいえた拒否者が出ている実態、自由意見にて“仕方がない”や“こうしてほしい”という意見・要望が出されている状況を考えると、より理解を得られるような取り組みを継続していく必要があると考えられる。

証明書の範囲の検討

- ▶ 提示された証明書をみると、「運転免許証」「社員証」「学生証」が主なものとなっており、また、職業等の属性によるものの保有者が多いと思われる。これらの証明書を中心に、「クレジットカード」「銀行カード」「献血手帳」「保険証」といったものの保有が多い結果となっている。さらに「本日は証明書がないので次回に提示」が約2割存在している。

「運転免許証」「社員証」「学生証」等を持っておらず、“証明書を持っていない”という約2割の方に対して、どこまで証明書の範囲を広げていくかがポイントとなる。

周知の徹底

- ▶ 本人確認の試行を「知っている」としたのは約2割となっており、8割近くの方には事前に知られていない状況であった。また、自由意見にて、“知らなかつたので証明書を持ってこなかった”“周知を徹底してほしい”という意見も挙げられた。

普段証明書を持ち歩いていない方に持ってきていただき、また、献血の際に証明書の提示を拒否されることのないよう、本人確認を行っていることやその趣旨についての周知を徹底していく必要がある。

図18

問診13番で「はい」と回答した人の受付者数に対する割合

HIV検査体制
研究班

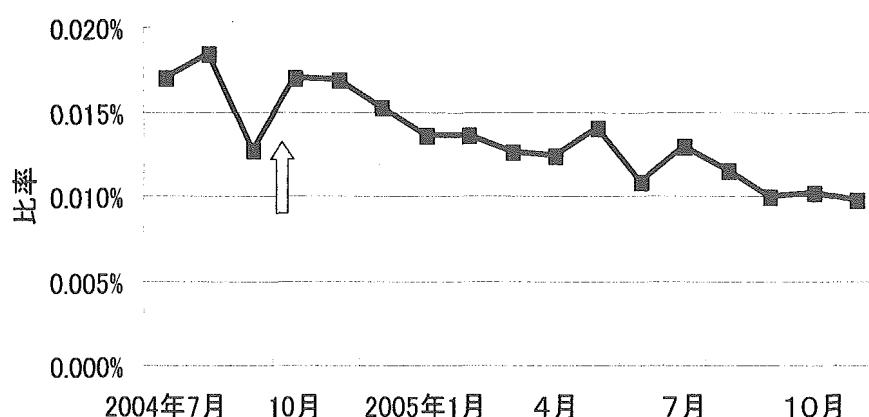


図19

HIV検査体制
研究班

献血者のNAT陽性数

期間： 1999.7.1～2004.12.31

検体検査数： 28,971,132

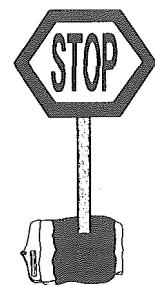
ウイルス	陽性数	
HBV	524	(1例／5.6万検体)
HCV	82	(1例／34万検体)
HIV	10	(1例／300万検体)

ウインドウ期

59 → 34 日

82 → 23 日

22 → 11 日



1999.7 500 本プール 2000.2. 50 本プール 2004.9 20 本プール

図20

献血血液のHIV検査（抗体とNATの陽性数）

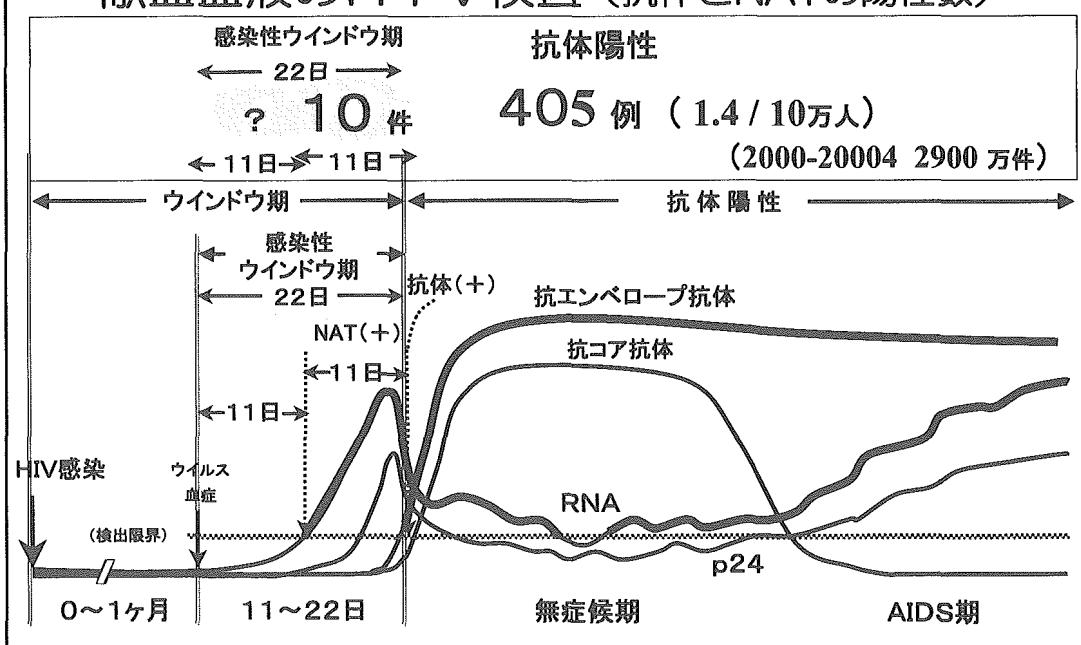
HIV検査体制
研究班

図21

年別NATスクリーニング実施状況

HIV検査体制
研究班

	検査対象数	検体数	HBV	HCV	HIV	計
1999	1,668,926	4,049	16	5	0	21
2000	5,542,085	107,737	88	18	3	109
2001	5,457,231	114,928	120	20	1	141
2002	5,484,142	114,168	103	11	2	116
2003	5,345,629	110,510	114	16	2	132
2004	5,257,543	165,681	82	12	2	96
2005	5,101,519	260,070	102	11	2	115
計	33,837,075	877,143	625	93	12	730

図22

HIV検査陽性の献血事例 (B)

HIV検査体制
研究班

2004.8. 献血 PA(-), NAT(20pool) 陽性
 男性 30歳代 (献血歴 3回)

経過

2年前(前回) 400mL献血 PA(-)

3日前 38.5°C発熱 近医受診 投薬
 2日前 前胸部、背部に発疹、皮膚科受診

2004.8. 200mL献血 PA(-), NAT(20pool) 陽性
 (1.5 × 10⁶copy / mL)

翌日 保健所にてHIV検査

1週後 頭痛出現、夜増強し、緊急外来受診し、入院。

図23 中間評価コメント
疑問・改善の指摘事項 3. HIV/AIDSがなぜ増えているのか。
検査介入時期を問題とする時期に来ているのでは?

HIV検査体制
研究班

検査を受ける時期

従来： 3ヶ月経ってから検査を…

新しい検査相談の
ガイドラインでは、



心配があれば先ず検査相談を…

(必要があれば3ヶ月以上経ってからの再検査を)

図24 Q. HIV感染があつたと思われる時期は?

HIV検査体制
研究班

HIV即日検査アンケート集計結果

<栃木県県南健康福祉センター 2004年>
(回答者数:675名)

<北新宿同仁斎メディカルクリニック 2004年>
(回答者数:324名)

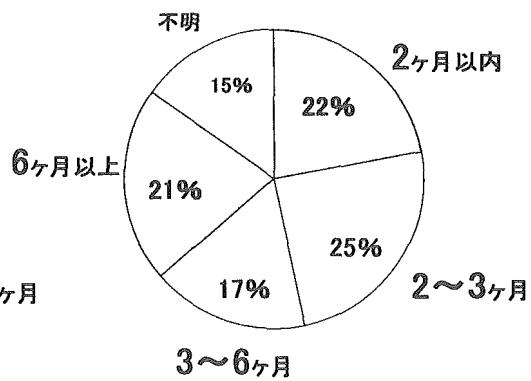
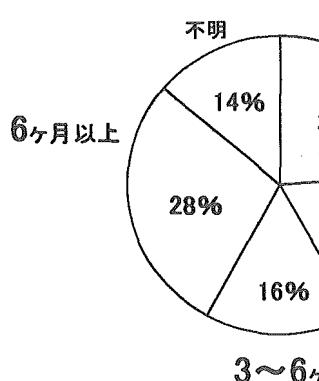


図25 感染初期症例
EIA,PA(+) WB,IC(-) PCR(+)

① 19歳 男性

検査データ: ELISA(エンザイグノスト) (+) 0.626/0.476
 ELISA(ジェンスクリーン) (+) 3.107/0.178
 PA法 (+) 128倍 イムノクロマト法 (-)
 WB法 HIV-1(-), HIV-2(±)

PCR(+) $>7.5 \times 10^5$ copies/ml
 背景: 7月16日に感染機会 8月初旬に39°C発熱 1週間、
 リンパ腫脹

8月11日 心配で検査受診
『感染機会から1ヶ月弱』

東京でのHIV検査相談 (2004.6-2005.8)
 18,771例中 陽性例 170 (0.9%)
 (WB 陰性1 保留11 陽性 158)
 - 2例はイムノクロマト陰性 -

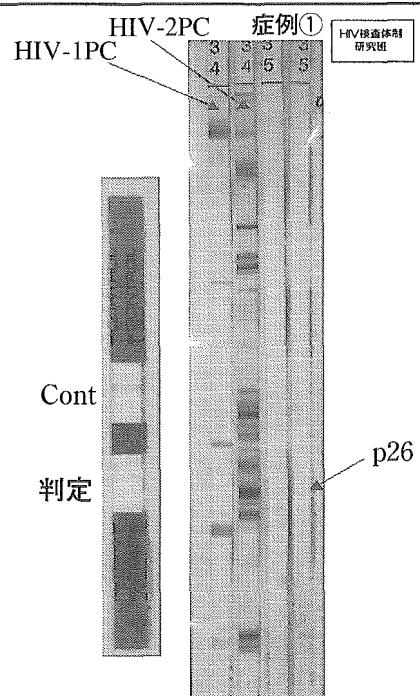
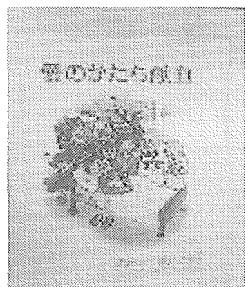
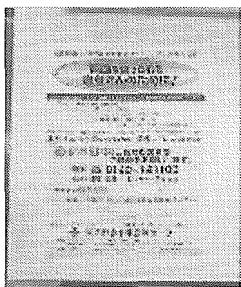


図26 献血者への情報提供
HIV検査・相談マップ

このホームページは、厚生労働省科学研究費エイズ対策研究事業
 「HIV検査体制の構築に関する研究班」
 (班長: 神奈川県衛生研究所 今井光信先生) が提供しています。



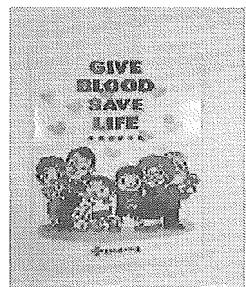
約20万部／年



約600万枚／年



約40万部／年



約60万部／年

27

全献血者へのパンフレット

HIV檢查
研究班

約600万枚／年

HIV検査・相談マップ

(www.hivkensa.com/)
(iモードwww.hivkensa.com/i/)

このホームページは、
厚生労働省科学研究費エイズ対策研究事業
「HIV検査体制の構築に関する研究班」
(班長: 神奈川県衛生研究所 今井光信先生)
が提供しています。

28

全献血者へのパンフレット

HIV檢體製
研究班

約600万枚／年

エイズ検査施設

エイズ検査をご希望の方は最寄りの保健所にお問い合わせください。
保健所ではエイズ検査を匿名・無料で受ける事ができます。

保健所では土・火・木検査
「HIV検査・相談マップ」

「HIV検査・相談」
(<http://www.hivkensa.com>)

(<http://www.hivkensa.com>)

では、保健所などの検査機関の情報が

では、保健所などの検査機関の情報が掲載されています。

図29

献血のHIV検査陽性件数の推移

HIV検査体制
研究班

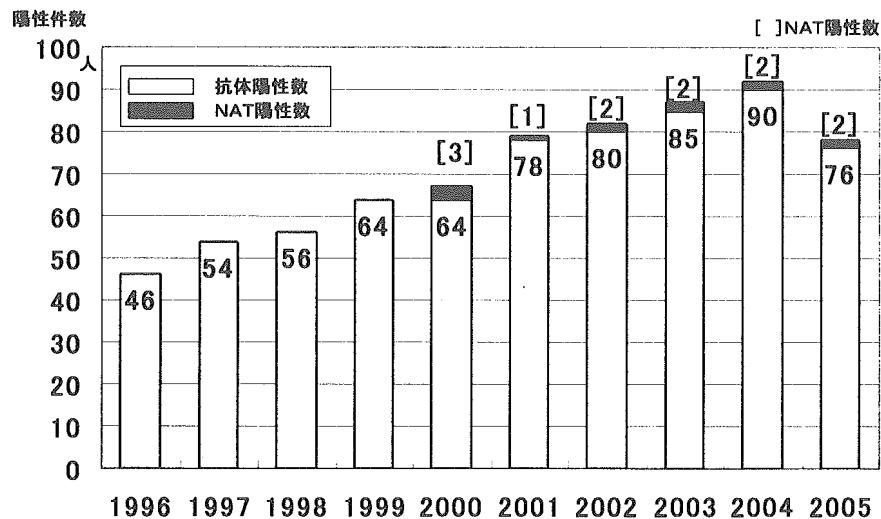


図30

HIV検査陽性献血者の動向

HIV検査体制
研究班

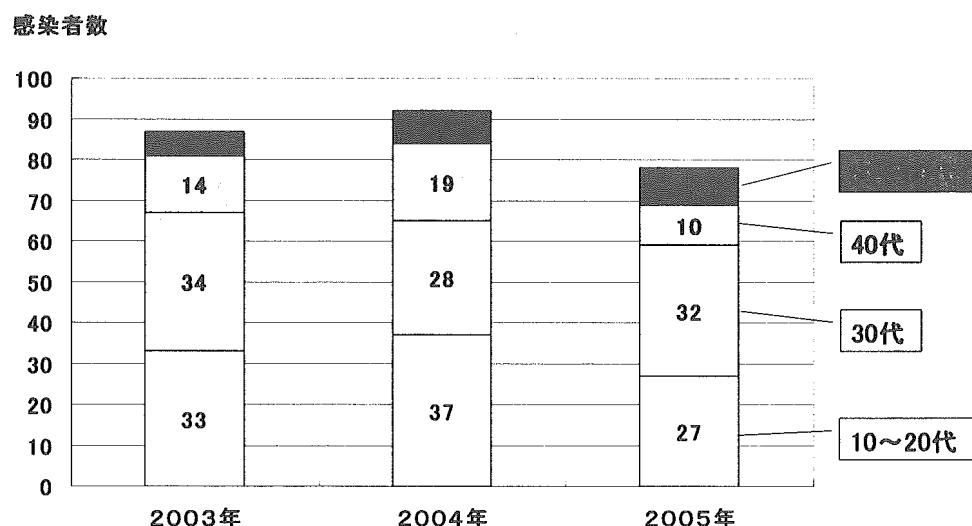


図31

献血者におけるHIV感染者の動向

HIV検査体制
研究班

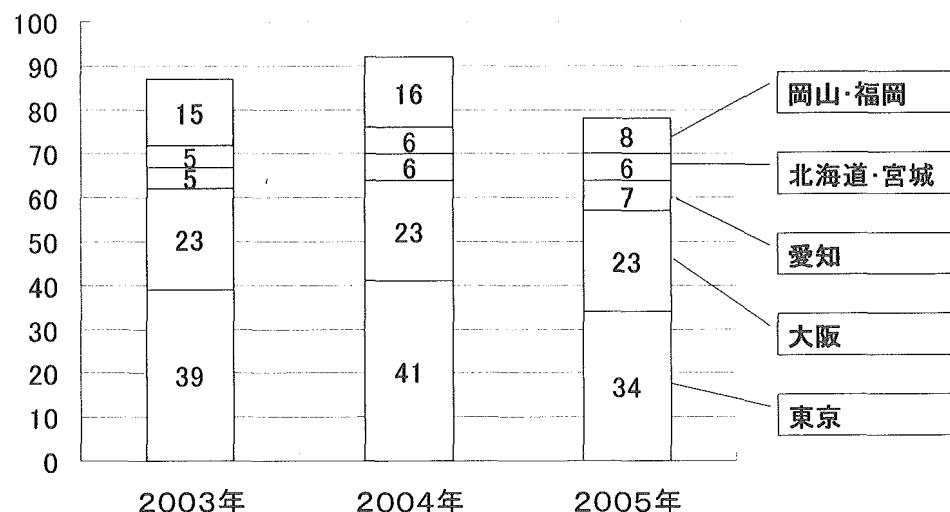


図32

HIV検査陽性献血者の動向

HIV検査体制
研究班

感染者数

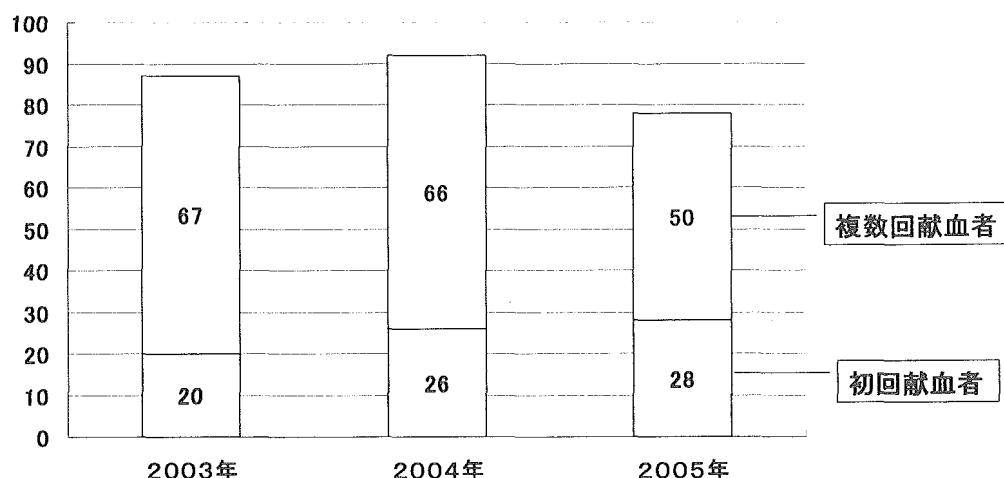


図33 HIV感染者報告数とHIV検査陽性数の推移

(1997~2005)

HIV検査体制
研究班

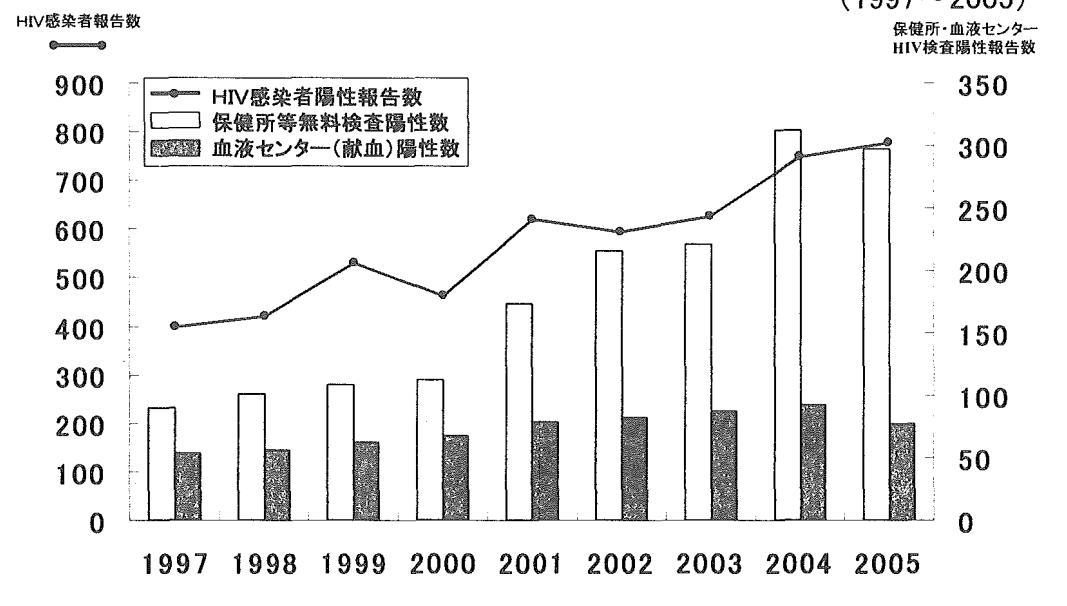


図34 保健所等無料HIV検査の陽性数と陽性率
(2005年 都府県別)

HIV検査体制
研究班

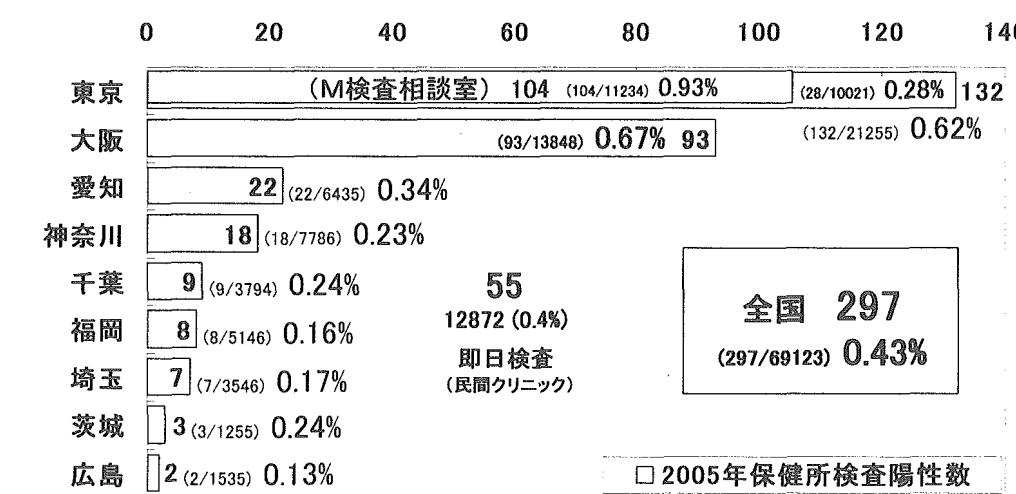


図35

HIV検査体制
研究班

保健所等HIV無料検査における陽性数の推移

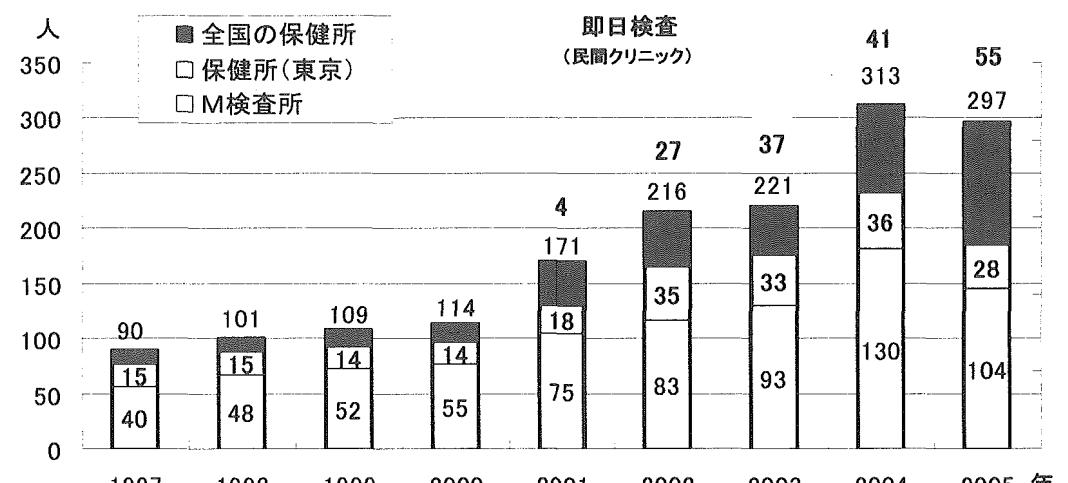


図36

HIV検査体制
研究班

T地域のHIV検査数と陽性数

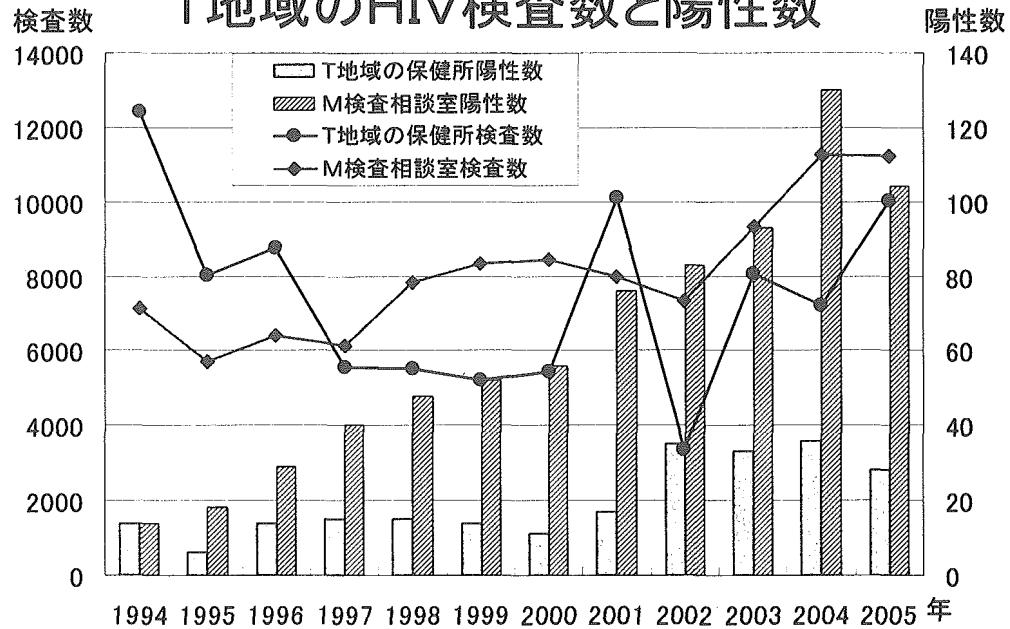


図37

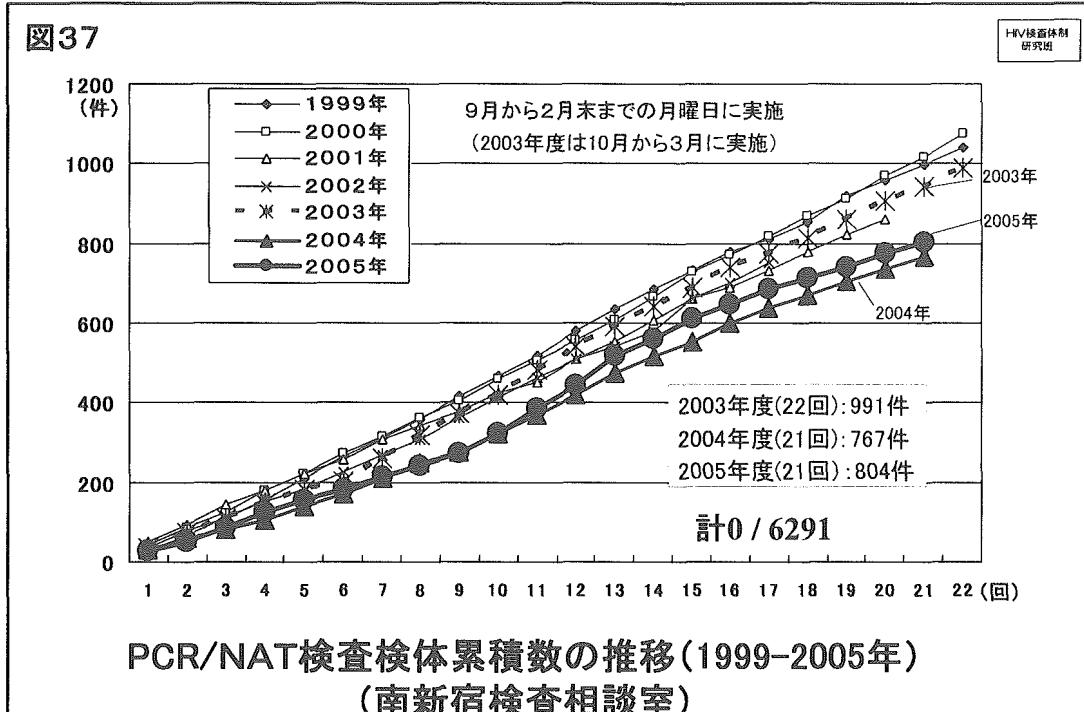


図38

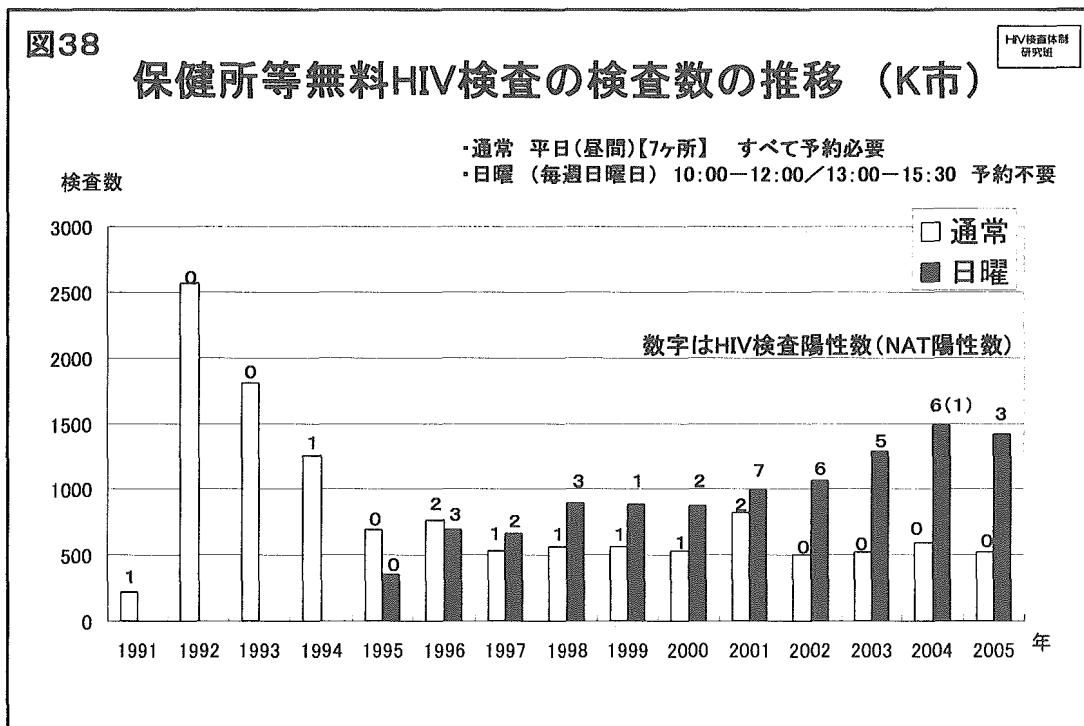


図39 迅速検査キット OraQuick の検討

HIV検査体制
研究班

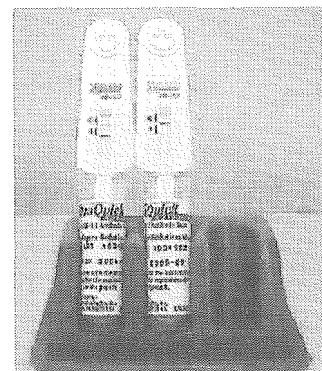
<血液検体での偽陽性率の検討>

陰性検体 111例中		ダイナスクリーン HIV-1/2	OraQuick HIV-1/2
	全血	0	0
	血漿	1 (偽陽性率 0.9%)	0

OraQuick

検体:全血・血漿
唾液でも検査可

反応時間:20分



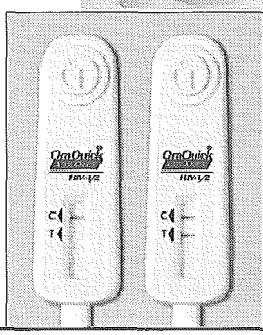
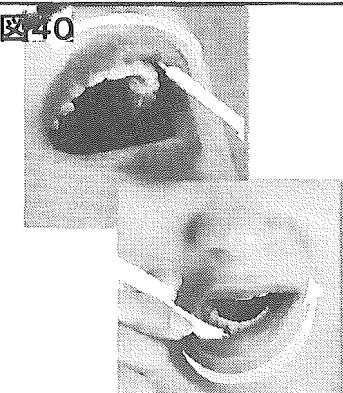
<セロコンバージョンパネルAU (BBI PRB945)>

パネル No.	初回採血 からの日 数	PA法	EIA法	迅速検査キット(IC法)		
		ジェネディア HIV 1/2Mix PA	アボット HIV-1/2 EIA	ダイナスクリーン HIV-1/2	Uni-Gold HIV-1	OraQuick HIV-1/2
		判定	C.O.I	判定	判定	判定
1	0	—	0.1	—	—	—
2	3	—	0.1	—	—	—
3	7	—	0.1	—	—	—
4	13	18	2.9	—	—	—
5	15	256	>17.9	+	+/-	—
6	20	32768	>17.9	++	++	+/-

図40

Rapid HIV Antibody Home-
Use Oral Fluid Test

(Ora Sure Technologies inc)



1. 上下の歯茎外周を平パッドで
ぬぐう
2. パッドをバイアルの底から挿入
3. 液がウインドウまで上る
4. 20-40分の間に結果を読む